

平成26年度
群馬県図書館協会会報

No. 9 (平27.3.31)

平成26年度の群馬県図書館協会の活動を御報告いたします。

- 1 第1回代議員会報告 P1

- 2 平成26年度全国公共図書館研究集会
(サービス部門 総合・経営部門) 報告 P2～5

- 3 第12回群馬県図書館大会報告 P6～8

- 4 研修報告 P9～14
 - (1) 図書館(室)職員初級研修 P9
 - (2) 図書館(室)職員実務研修 P10～12
 - (3) 図書館(室)職員専門研修 P13～14

- 5 各加盟団体活動報告 P15～17
 - (1) 群馬県公共図書館協議会 P15
 - (2) 群馬県高等学校教育研究会図書館部会 P16
 - (3) 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会 P17～18

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）

加盟団体

群馬県公共図書館協議会
群馬県大学図書館協議会
群馬県高等学校教育研究会図書館部会
群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会
群馬県立図書館

第 1 回 代 議 員 会 報 告

平成 26 年 6 月 6 日（金）、県立図書館 3 階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第 1 回代議員会が開催されました。

はじめに、入沢会長（群馬県立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入りました。

議 題

1 群馬県図書館協会関係

- (1) 平成 25 年度群馬県図書館協会事業報告について
- (2) 平成 25 年度群馬県図書館協会決算について
- (3) 平成 25 年度群馬県図書館協会会計監査報告について
- (4) 平成 26 年度群馬県図書館協会事業計画（案）について
- (5) 平成 26 年度群馬県図書館協会予算（案）について

2 群馬県読書推進運動協議会関係

- (1) 平成 25 年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について
- (2) 平成 25 年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について
- (3) 平成 25 年度会計監査報告について
- (4) 平成 26 年度群馬県読書推進運動協議会事業計画（案）について
- (5) 平成 26 年度群馬県読書推進運動協議会予算（案）について

3 監事の指名について

藤岡市立図書館 齋藤 冴 氏

4 平成 26 年度全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門）の開催について

5 第 12 回群馬県図書館大会の開催について

事務局から提出され承認されました。

平成26年度 全国公共図書館研究集会

(サービス部門 総合・経営部門) 報告

1 研究主題

地域を支えはぐくむ図書館サービス ～^{いま}現在、求められる図書館とは～

2 趣 旨

地域を支える拠点として、地域に不可欠な存在となるにはどうすれば良いのか。今、多くの公共図書館がその方法を模索しているのではないのでしょうか。

住民のニーズに応え、地域とつながっていくことで、地域社会の活性化に貢献したい。そんな思いから、私たちは本研究主題を「地域を支えはぐくむ図書館サービス」としました。

会場地群馬県は、百を超える源泉溢れる「湯の国」で、古くから多くの人びとが訪れ、さまざまな交流が行われてきました。東国文化が花開いた太古から交通の要衝となった今日に至るまで、交流の伝統が根づくこの地は、意見を交換し、図書館サービスの研究を深めていくのにふさわしい場所です。

また、ここ群馬には世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に代表される生糸の文化が今も息づいています。一本の生糸から美しい絹が織りなされるように、この研究集会を通して、皆さんの思いは、強く、しなやかで、美しい光沢を放つ「現在、求められる図書館」として綾なされることでしょう。

3 主 催 公益社団法人 日本図書館協会公共図書館部会

群馬県教育委員会

群馬県図書館協会

関東地区公共図書館協議会

4 主 管 群馬県立図書館

5 期 日 平成26年10月9日(木)・10日(金)

6 会 場 高崎市立中央図書館・高崎市総合保健センター

7 参 加 者 全国の公共図書館及び関係機関の職員、学校及び教育委員会の関係者、図書館活動の関係者並びに図書館に関心のある方

8 日 程

(第一日目) 10月 9日(木)

12:00		13:00		13:20		14:50		15:00		16:00		16:10		17:10		17:40		19:40	
	受付	開会式		基調講演		休憩		事例発表		休憩		事例発表		移動		情報交換会			

(第二日目) 10月10日(金)

9:00		9:10		9:50		10:00		11:40		12:00		13:00		13:30	
受付	報告(※)	休憩		全体会 (パネルディスカッション)				閉会式		昼食		図書館見学			

9 内 容

(1) 基調講演 「地域に根づく図書館活動 ～つながる図書館、つなげる司書～」

慶應義塾大学文学部 教授

糸賀 雅児 氏

(2) 事例発表

① 「まちづくりに生きる図書館とは? ～持ち寄り・見つけ・分け合う広場をめざして～」

岡山県瀬戸内市教育委員会

新図書館開設準備室長

嶋田 学 氏

② 「非日常を振り返って ～地域と図書館が考えること～」

福島県南相馬市立中央図書館

司書

高橋 将人 氏

③ 「来館困難な方への図書館サービス ～元気はいたつ便を中心に～」

愛知県田原市中央図書館

主査

天野 良枝 氏

④ 「安全・安心な図書館サービスへ ～危機管理を考える～」

群馬県草津町立図書館

係長

中沢 孝之 氏

(3) 全体会 (パネルディスカッション) 「地域を支えはぐくむ図書館サービスとは」

◇ コーディネーター 糸賀 雅児 氏

◇ パネリスト 嶋田 学 氏 高橋 将人 氏

天野 良枝 氏 中沢 孝之 氏

10 概 要

2日間に渡って開催された本研究集会は、県内外 200 名を超える方々に御参加いただいた。概要は以下のとおり。

○1日目は、基調講演、事例発表が行われた。

【基調講演】



「地域に根づく図書館活動 ～つながる図書館、つなげる司書～」と題して慶應義塾大学文学部教授の糸賀雅児先生より基調講演をいただいた。さまざまな実例を紹介しながらの図書館による「課題解決支援サービス」の充実。「つなげる」司書を養成するための図書館職員研修の動向と研修の課題。そして、これから求められる「地域に根ざす図書館の経営」など、現在の図書館の課題と変わりゆく図書館経営について、熱く語っていただいた。

【事例発表 1】



岡山県瀬戸内市教育委員会 新図書館開設準備室長の嶋田学氏が、「まちづくりに生きる図書館とは ～持ち寄り・見つけ・分け合う広場をめざして～」と題して事例発表された。「持ち寄り・見つけ・分け合う」というコンセプトに基づいた瀬戸内市が目指す新図書館についてや、地域の課題に合わせた資料の提供や、住民と行政・地域の組織との橋渡しなどまちづくりに生きる図書館サービスについてお話しいただいた。

【事例発表 2】

福島県南相馬市立中央図書館司書の高橋将人氏が、「非日常を振り返って ～地域と図書館が考えること～」と題して事例発表された。東日本大震災による震災ストレス下の地域住民への図書館サービスや、震災復興期における激減した児童・生徒への「学校支援」など、東日本大震災という非日常時における図書館の役割についてお話しいただいた。



【事例発表 3】

愛知県田原市中央図書館主査の天野良枝氏が、「来館困難な方への図書館サービス ～元気はいたつ便を中心に～」と題して事例発表された。高齢者福祉施設へ図書館職員が訪問し、グループ回想法やレクリエーションを実施する「訪問サービス」、図書館資料を配達、回収する「団体貸出サービス」など、図書館への来館が困難な高齢者や障がい者を対象とした図書館サービスについてお話しいただいた。



【事例発表 4】



群馬県草津町立図書館係長の中沢孝之氏が、「安全・安心な図書館サービスへ ～危機管理を考える～」と題して事例発表された。地域に求められる図書館と図書館職員についての自らの体験と考えを述べたあと、クレームや暴力行為、ストーカーなど具体的な図書館での危機事例とその対応、図書館の危機管理についてお話しいただいた。

○2日目は、報告と全体会が行われた。

【報告】

（公社）日本図書館協会理事長の森茜氏から、2013 年度図書館統計の結果や日本図書館協会の活動・運営状況についての報告があった。続いて、国立国会図書館電子情報部の諏訪康子氏から、国立国会図書館東日本大震災アーカイブについての報告があった。

【全体会（パネルディスカッション）】



基調講演講師の糸賀先生をコーディネーターに、4名の事例発表者をパネリストに迎えて全体会（パネルディスカッション）を行った。

前日の基調講演や事例発表を更に深める参加者からの質疑とその応答に続いて、「地域を支えはぐくむ図書館サービス」の提供について、熱心な討論が行われた。

第12回 群馬県図書館大会報告

未来につなげる図書館 ―地域との連携をめざして―

日時：平成27年1月29日（木）10時～16時30分

場所：太田市学習文化センター

日程：

1 式典（10：00～10：30）（視聴覚ホール）

- (1) 主催者挨拶 群馬県図書館協会長
入沢 正光（群馬県立図書館長）
- (2) 来賓祝辞 群馬県教育委員会教育長（代理）
萩本 勝美（群馬県教育次長）
- (3) 後援・加盟団体紹介〔略〕
- (4) 表彰式
 - ①優良図書館群馬県教育委員会表彰 明和町立図書館
 - ②群馬県読み聞かせボランティア顕彰
 - ・読み聞かせの会 ひまわり（伊勢崎市）
 - ・二小 よみきかせ隊（館林市）
 - ・藤岡市立東中学校読み聞かせボランティア そよかぜの会（藤岡市）
 - ・大間々東小学校PTA 読み聞かせボランティア（みどり市）
 - ・かたしな読み聞かせの会（片品村）
 - ③優良読書グループ表彰伝達 やまとの会（前橋市）
 - ④第百回全国図書館大会記念感謝状伝達
図書館ボランティアの会（館林市）



2 記念講演（10：30～12：00：視聴覚ホール 参加者182名）

演題：「図書館は未来の羅針盤だ！

－マチ・ヒト・コトをつなぐ交流広場を創造しよう。－

講師：花井裕一郎氏（演出家・hanajuku代表・NPO法人オブセリズム理事）

《概要》

演出家として、どうヒトが動くのか、どう仕掛けていくのかを考えながら日本中を回っている元長野県小布施町立図書館長の花井裕一郎氏の記念講演は、これまでの「図書館の概念」を壊す大変興味深いお話だった。

講演の中で花井氏は、「図書館は、『館』ではなく『機能』ではないか。図書館という箱を飛び出して、その機能をもっと発揮すればおもしろい



図書館ができると思う。図書館は本を借りるだけのところ、受験勉強するだけのところという価値観は壊しましょう。図書館ができることを、もう一度創造する時代に来たと思う。」と話された。そして、「そのためにも『自分の図書館は何のために存在しているのか』という理念を大事にして欲しい。図書館の理念によって価値観がそれぞれ変わっていく。そして、図書館の理念がその図書館の個性になり、その図書館のおもしろさ、わくわくさになる」と話された。

また、図書館における「おもてなし」については、「例えば分かりやすい言葉を使う。『書架』や『OPAC（オパック）』など図書館は専門用語が多い。僕たちは分かってもお年寄りや子どもには分からない。なぜ、相手に分かりやすい言葉で話さないのか。分かりやすい言葉を使うことも『おもてなし』になると思う。皆さんが『おもてなし』としてやっていることは、端から見ると『めんどくさい』ことだ。どうしてそこまでやるのかと言えば、やっぱり笑顔になってもらいたい、喜びを感じてもらいたいからだと思う。図書館も同じだと思う。『めんどくさい』ことをしていると『おもてなし』になる。」と話された。

参加された方からは、「とても楽しいお話で楽しく聞くことができた。」「これまでの『図書館の概念』を壊すことで、図書館はもっと素晴らしいところになると思った。」「今までの講演会や研修会とは違った感覚で、とてもおもしろく、とても興味深かった。」等の好意的な感想が多く出された素晴らしい記念講演会であった。

3 テーマ別分科会（13：00～16：30）

（1）第1分科会（視聴覚ホール 参加者57名）

「地域の魅力」を図書館から

午前中の記念講演に引き続いて、分科会でも講師を務めていただいた演出家の花井裕一郎氏から「『図書館の魅力発信』とは」と題し、図書館の魅力を発信するための広報や表現について、図書館を運営している人や司書の魅力をアップすることについてなどのお話をいただいた。事例発表として、まず調布市立中央図書館の川奈亜弥氏から「映画のまち調布と映画資料室について」と題し、図書館の映画資料室とその資料の活用について話



された。次に横浜市中心図書館の坪之内槇氏から「ひろがるヨコハマ資料活用の場 ー新たな価値創出を目指してー」と題し、地域資料「ヨコハマ資料」の収集・整理・保存・活用について話された。その後、3人によるパネルディスカッションを行った。

参加者からは、「いろいろな体験談が聞けて良かった。とても参考になった。」、「地域の特色を生かした資料を収集し、活用することも図書館の魅力だと思った。」等の意見が寄せられ、大変好評であった。

（2）第2分科会（第1研修室 参加者59名）

「子どもたちの学びが広がる・授業が変わる図書館活用」

神奈川県大和市教育委員会教育部指導室学校図書館スーパーバイザー [SLS] の藤田利江氏から「『情報』と『人』をつなぐ学校図書館支援」と題し、東京都荒川区での学校図書館支援の実践や学校図書館支援室について、大和市での実践や課題についてなどのお話をいただいた。

事例発表として、邑楽町立図書館の若井邦香氏から「学校へのサービスのはじまりから現在」と題し、移動図書館「はくちょう号」による学校への本の貸出や学校訪問について話された。



次に群馬県立図書館の山田康成氏から「もっと授業に図書館をー公共図書館との連携を考えるー」と題し、学校と公共図書館の連携に関する課題や図書館を活用した具体的な授業案について話された。質疑応答のあと、グループ別情報交換と報告を行った。

参加者からは、「大変役に立つ内容だった。とても勉強になった。」、「先生へのPRの仕方、図書館活用のヒントをもらった。」、「現場のリアルな話が聞けて良かった。」等の意見が寄せられ、大変好評であった。

図書館（室）職員初級研修

日 時：平成26年4月25日（金）10時～16時

場 所：群馬県立図書館 3階研修室

参加者：70名

講 義：講義①「ようこそ図書館へ」

石原 照盛 氏（前邑楽町立図書館長）

講義②「県立図書館の課題解決サービスについて」

市村晃一郎 氏（群馬県立図書館）

講義③「レファレンスはじめの一步」

中沢 孝之 氏（草津町立図書館）

講義④「図書館の危機管理」

中沢 孝之 氏（草津町立図書館）

グループ討議

《概要》

群馬県図書館協会加盟各館（室）に、新規採用された職員、異動した職員及び経験1年未満の職員を対象として、日常的な図書館業務及び図書館運営の基礎知識について理解を深めるために開催した。

《参加者の意見等》

- ・知らないことが多く、今日の研修でさまざまなことが分かった。レファレンス対応で戸惑うこともあり、地域のことを学ばなければならないと思った。
- ・具体的な図書館サービスや危機管理が学べてとても参考になった。
- ・今後の業務に参考になるようなこと、勉強になるようなことが多かった。
- ・知らない方と同じ話題が共有できて良かった。（グループ討議）
- ・図書館の意識が変わった。困ったことがあったら相談できる仲間がいると思うと心強く感じた。

《今後の研修希望》

- ・学校図書館と公共図書館の連携について
- ・著作権について
- ・危機管理について
- ・今さら聞けない図書館の「基本」について
- ・学校図書館の運営について

《研修担当者から》

公共図書館だけでなく、大学図書館、学校図書館、公民館図書室で勤務する職員（初任者）が多く集まった。皆さん、前向きに講義に参加してくださり、1日という長丁場の研修もあっという間に終わったという声が多く聞かれた。図書館に勤務するにあたって、身近な話題や直面する問題、様々な図書館サービスの紹介を通して、図書館業務の奥行や多様性を感じてもらえたと思う。

第1回図書館（室）職員実務研修

日 時：平成26年9月4日（木） 10時～16時

場 所：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：124名（講義①77名、講義②105名、講義③51名）

講 義：講義①「図書館サービスと著作権」

井上 奈智 氏（国立国会図書館電子情報サービス部）

講義②「本を魅せる工夫 –ディスプレイ・展示の実例–」

中村 健二 氏（紀伊國屋書店 前橋店長）

講義③「これからの県立図書館サービスについて」

市村晃一郎 氏（群馬県立図書館 館内サービス係）

《概 要》

講義①「図書館サービスと著作権」

講師：井上 奈智（国立国会図書館電子情報サービス部）



著作権の動向を踏まえつつ、著作権法と図書館サービスのかかわりについての考え方を説明していただき、自館サービスと著作権規定の位置付けについて、事例を交えながら分かりやすく講義していただいた。

《参加者の意見等》

「複製の範囲や著作権の種類、著作権とはそもそも何なのかを知ることができ、大変有意義な研修であった。」など、著作権についての知識が深まったと好評であった。

《概 要》

講義②「本を魅せる工夫 –ディスプレイ・展示の実例–」

講師：中村 健二（紀伊國屋書店 前橋店長）

書店の立場から、本を魅力的に紹介するためのディスプレイや展示の方法について、実際の配架の様子を参考に講義していただいた。

《参加者の意見等》

「書店ではどのように本を並べているのか詳しく知ることができた。」「魅力ある空間を作るための良い参考になった。」など、すぐに実行できる内容であったという意見が多かった。



《概 要》

講義③「これからの県立図書館サービスについて」

講師：市村晃一郎（群馬県立図書館 館内サービス係）

「高度な専門的情報サービスを提供する図書館」、「図書館ネットワークの中核図書館」、「県内の図書館等を支援する図書館」をめざして、大きく変わりつつある県立図書館のサービスについて、説明していただいた。



第2回図書館（室）職員実務研修

日時：平成26年11月27日（木） 10時～16時

場所：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：96名（講義④68名、講義⑤66名）

講義：講義④「子どもに本を手渡すには ー図書館員の役割ー」

伊藤 明美 氏（浦安市立中央図書館 資料第一係）

講義⑤「国立国会図書館のレファレンスサービス」

原 聡子 氏（国立国会図書館 利用者サービス部）

《概要》

講義④「子どもに本を手渡すには ー図書館員の役割ー」

講師：伊藤 明美 氏（浦安市立中央図書館 資料第一係）

子どもたちの心に残る本との出会いのために図書館職員が行うべき児童サービスについて、実務に長く携わっている経験や実践を交えながら、分かりやすく講義していただいた。

《参加者の意見等》

「子どもに対する愛情をひしひしと感じる温かい講義だった。」「子どもに対する図書館員の姿勢が参考になった。」など児童サービスにおける図書館員の役割について勉強になったと大変好評であった。



《概要》

講義⑤「国立国会図書館のレファレンスサービス」

講師：原 聡子 氏（国立国会図書館 利用者サービス部）

「リサーチ・ナビ」をはじめとする様々な国立国会図書館のレファレンスツールを用いたレファレンスサービスについて、すぐに活用できるようレファレンスの事例を交えて、講演していただいた。

《参加者の意見等》

「国立国会図書館でのレファレンスの仕方を丁寧に詳しく説明していただけて、とても勉強になった。」など複数のレファレンスツールを使ったレファレンスについてのコツが理解できたという意見が多数寄せられた。



第3回図書館（室）職員実務研修

日時：平成26年12月19日（金） 10時～16時

場所：前橋プラザ元気21内 5階 前橋市中央公民館 第51・5会議室（講義⑥、⑦）
2階 前橋こども図書館（図書館見学）

参加者：62名（講義⑥54名、講義⑦49名、図書館見学36名）

講義：講義⑥「子どもが本を読むということ

－自己と他者をつなぐメディアとしての本をてがかりに－

後藤さゆり 氏（共愛学園前橋国際大学 教授）

講義⑦「生きる力・夢や希望を育む学校図書館を支える公共図書館」

富永香羊子 氏（市川市教育センター 指導主事）

図書館見学「県内の図書館を知ろう！ 第3回 前橋こども図書館」

布施 一成 氏（前橋こども図書館長）

《概要》

講義⑥「子どもが本を読むということ －自己と他者をつなぐメディアとしての本をてがかりに－

講師：後藤さゆり（共愛学園前橋国際大学 教授）



子どもが自主的に読書を行うための環境作りや、子どもの発達と読書の質の転換、本を読み合うための大人のレッスンなど「子どもが本を読むこと」について深く掘り下げた内容の講義をいただいた。

《参加者の意見等》

「子どもに寄り添い『本になる』という御意見が新しく、考えさせられた。」など、ブックスタートや読み聞かせをするときのヒントが盛り込まれていると好評であった。

《概要》

講義⑦「生きる力・夢や希望を育む学校図書館を支える公共図書館」

講師：富永香羊子 氏（市川市教育センター 指導主事）



公共図書館の学校サービスにおいて先進的な実践を続けている千葉県市川市の公共図書館と学校図書館のネットワーク事業について、実例を交えながら分かりやすくお話しいただいた。

《参加者の意見等》

「講師の先生の熱意が伝わってきた。」という意見に加え、市川市の学校図書館と公共図書館の連携の方法を参考にしていきたいという意見が多数寄せられた。

《概要》 図書館見学 「県内の図書

館を知ろう！第3回 前橋こども図書館」 講師：布施 一成（前橋こども図書館長）

県内唯一のこども図書館である「前橋こども図書館」の特色や選書方法の説明のあと、こども図書館ならではの配架の状況などを見学した。



第1回図書館（室）職員専門研修

テーマ：「教員と図書館員が連携する学術情報リテラシー教育」

日時：平成26年9月19日（金）13時30分～16時

場所：高崎健康福祉大学 2号館213講義室

参加者：45名（大学図書館38名、公立図書館2名、高校図書館5名）

講演：「教員と図書館員が連携する学術情報リテラシー教育」

松尾由希子 氏（静岡大学 大学教育センター講師）

渡邊 貴子 氏（静岡大学 附属図書館）

《概要》

静岡大学では、平成24年10月より協働授業を行なっている。協働授業とは、レポートやレジュメ作成のための適切な情報リテラシー獲得を目的とし、教員と図書館職員が互いの専門性を生かしながら協力して実施するものである。協働授業の成果として、学生については、文献検索力の向上、図書館利用の活発化、学習支援者としての図書館員の認識などが確認できた。また、教員については、適切な文献活用によってアクティブ・ラーニング（グループ発表など）の充実。図書館職員については、文献検索に関する学生の現状と傾向の把握などが確認できた。この講演会では、教員と図書館職員それぞれの立場から協働授業の意義や目的について話し、具体的に実践の現状や効果についても紹介した。



（会場・高崎健康福祉大学）



（渡邊講師）



（松尾講師）



（動画を使った講義風景）



（質疑応答）



《参加者の意見等》

「非常に具体的な講演で意義深いと感じた。」「参考になった。」という感想が多く寄せられた。「本学でも協働授業と似たようなことを行っているが、事前の意識調査や事後のフィードバックを行っていないことに気づいた。」というように、現状の業務と照らし合わせ、ヒントを得た受講者もあった。実績のある講演だったため、「NIIの情報リテラシー担当者研修へずっと行きたいと思っていたので、担当しておられるお二人の話を聞くことができ、大変刺激になった。」と期待通りの内容に満足度も高く、教員と一緒に授業をすることで、図書館員を「見える化」する素晴らしい実践など好意的な評価が多数寄せられた。

第2回図書館（室）職員専門研修

テーマ：「図書館による情報発信と著作権」

日時：平成27年3月17日（火）14時～16時

場所：群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館 ラーニングcommons

参加者：47名（大学図書館23名、公立図書館18名、高校図書館6名）

講演：「図書館による情報発信と著作権」

大和 淳 氏（独立行政法人日本芸術文化振興会基金部長
国立教育政策研究所フェロー）

《概要》

図書館は著作物の宝庫であり、学生、研究者や地域住民に対してそれらを提供することにより学術や生涯学習の推進に貢献する役割を担っている。他方、デジタル化、ネットワーク化の急速な進展により、社会のあらゆる場面でのコンテンツの利用態様が変化してきている。例えば電子書籍や電子ジャーナルの普及に伴って文献等の新たな提供方法が生まれ、また、大学独自の情報発信方法として機関リポジトリの取組も進んでいる。このような新たに便利な技術が開発されるとき、それが著作権とどのような関係が生じるのか。応用問題を解くために必要な基礎的な知識や考え方は何かについて考えた。



（会場・群馬大学）



（大和講師）



（末松大学図書館協議会長）



（講義風景）



（質疑応答）

《参加者の意見等》

「分かりやすかった。」「著作権のことは関心があったので聞いてよかった。」などの意見が多く聞かれた。大学図書館からの参加者は「リポジトリにおける著作権の説明や、公衆送信権について、大変参考になった。」との感想が多かったが、一方で「テーマを絞ったほうが良かった。」「情報発信に関しては大学図書館寄りのお話がほとんどだったので、公共図書館に関係するお話も、もう少し聞きたかった。」という感想を持った方も複数あった。

群馬県公共図書館協議会研究部会 3 部合同研修

日 時：平成 27 年 3 月 4 日（水） 10 時～ 16 時

場 所：前橋市立図書館

参加者：39 名

講 義：講義：「もっと授業に図書館を — 公共図書館と学校図書館の連携を考える —」
山田 康成 氏（群馬県立図書館 指導主事）

講演：「図書館のサービスで必要なもの、こと」

明石 浩 氏（広島県福山市中央図書館）

《概 要》

県内市町村立図書館（室）職員の資質向上並びに市町村図書館（室）の情報交換、交流を目的として例年 3 回の研修を実施している。26 年度は、3 部会合同研修として、総合的に図書館サービスを考える研修を行った。

《参加者の意見等》

- ・楽しくためになるお話だった。
- ・学校との連携や笑顔を維持するための健康管理など、目を向けていなかった部分に意識が向いた有意義な時間だった。
- ・臨時職員ではなく、正職員にも研修に参加してほしい。
- ・意見交流など大変参考になった。今後ともよろしくお願いします。
- ・明石さんのお話は、図書館員にとって必要なもの大切なものを思い起こさせ、明日の仕事に役立てるものだった。

《研修担当者から》

前橋市立図書館での研修ということで、駐車場や昼食の場所などで手違いがあり、参加者を混乱させてしまったことは今後の研修運営の反省材料として役立てなければならない。

研修は、学校との連携や子どもたちへのサービス、日常のサービスを考えるうえで、示唆に富むものだった。山田氏、明石氏ともにユーモアを交えながら、図書館員にとって大切なものや、サービスの基本となる心構えを熱心に話していただいた。



群馬県高等学校教育研究会図書館部会

1 総会及び講演会 平成26年5月2日(金) 県総合教育センター

- (1) 諸報告
- (2) 司書研修会分散会報告
- (3) 講演会
講師：絲山 秋子 氏(作家)
演題：「また、あの本を読もう！」

2 司書研修会

〈第1回〉平成26年7月7日(月) 県総合教育センター

分科会研修(9分科会に分かれて研修を行う)

- ①群馬県高等学校図書館の歴史
- ②CASA110番
- ③「読書週間」活用法
- ④授業に活かす学校図書館～司書からのアプローチ～
- ⑤著作権Q&A
- ⑥利用者教育
- ⑦分類
- ⑧群馬県高等学校図書館チェックリスト
- ⑨初心者研修

〈第2回〉平成26年10月27日(月) 県総合教育センター

- (1) 分科会中間報告
- (2) 講演およびワークショップ
演題：「手にとりたくなる『本の帯』とは？」
講師：古市 怜子 氏(株式会社 東京創元社 編集部)

3 冬季研究大会並びに講演会 平成27年2月5日(木) 共愛学園前橋国際大学

- (1) 読書感想文、読書感想画表彰式及び講評
- (2) 司書研修会分科会報告
- (3) 講演会
講師：高見 京子 氏(東京学芸大学非常勤講師)
演題：「本と高校生を結びつける」
- (4) 研究協議分散会
 - ・「高等学校教育における読書指導のあり方を考える」
発表者：藤生 揚亮 氏(群馬県立太田高等学校教諭)
 - ・「図書館からのNIE情報提供－新聞情報の活用－」
発表者：宮崎 好久 氏(群馬県立渋川高等学校司書専門員)
 - ・「巡回企画展による学校間の図書館連携
～安中・富岡・甘楽地区の取り組みについて～」
発表者：木内 信夫 氏(群馬県立富岡東高等学校教諭)

群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

- 1 総会及び幹事会 平成26年6月3日(火) 富岡市生涯学習センター
- 2 研究員会
 - 【第1回】 平成26年6月24日(火) 富岡市生涯学習センター
 - テーマの決定：小学校「学校図書館の活用と読書活動の充実を目指して」
 - 中学校「学校図書館の利用指導の工夫」
 - 【第2回】 平成27年1月14日(水) 富岡市生涯学習センター
 - 研究実践集録の作成並びに情報交換
- 3 第39回全国学校図書館研究大会(甲府大会)
 - 平成26年8月6日(水)～8日(金) 会場：山梨学院大学等
 - ・大会主題「学びを深め 知を生かす 学校図書館」
 - ～豊かな育ちを支えるために～
- 4 群馬県学校図書館研究協議会(中毛大会)
 - 平成26年8月20日(水) 会場：渋川市金島ふれあいセンターホール
 - ・研究主題「読書に親しみ積極的に図書館を利用する児童生徒の育成」
 - 提案1「心豊かな児童を育てる読書指導」
 - ～読書の質と量を高めるための取組を通して～
 - 渋川市立小野上小学校 教諭 荒木 聡子
 - 提案2「読書に親しみ、積極的に図書館を利用する児童生徒の育成」
 - ～朝読書への取組と図書委員会活動を通して～
 - 渋川市立子持中学校 教諭 清水 浩
 - 記念講演「手作り紙芝居で、地域の民話を伝えよう！」
 - 講師 子どもと本をつなぐ”結”代表 吉兼 美恵子 様 他
- 5 第60回青少年読書感想文全国コンクール群馬県審査会
 - ・審査会 第1回 10月22日(水) 富岡市生涯学習センター 会議室
 - 第2回 11月13日(木) 富岡市生涯学習センター 会議室
 - ※小学校(低・中・高)、中学校の各部より各2点、計8点を県代表作品として「全国コンクール」へ出品
 - ※〈小学校 課題読書〉の部で、群馬大学教育学部附属小学校 平山 果澄さんが「サントリー奨励賞」を受賞
- 6 第26回読書感想画中央コンクール群馬県審査会
 - ・県審査会 平成27年1月15日(木) 富岡市生涯学習センター
 - ※小学校(低・高)、中学校の各部より各4点、計12点を県代表作品として「中央コンクール」へ出品予定
 - ※〈中学校 指定読書〉の部で、渋川市立渋川北中学校 増田 琴瀬さんが「文部科学大臣賞」を受賞し、同部で、高崎市立中尾中学校 飯塚 菜帆さんが「優良賞」を受賞
- 7 部会誌「学校図書館55号」
 - ・平成27年3月20日発行

平成26年度 読書感想画最優秀作品

小学校低学年

【自由読書の部】



【指定図書の部】



小学校高学年

【自由読書の部】



【指定図書の部】



中学校

【自由読書の部】



【指定図書の部】



平成26年度
群馬県図書館協会会報
NO. 9 (平27. 3. 31)

編集：発行 群馬県図書館協会

事務局 前橋市日吉町1-9-1
群馬県立図書館内

TEL 027(231)3008
FAX 027(235)4196